

基準 9. 教育研究環境

9-1. 教育研究目的を達成するために必要なキャンパス（校地、運動場、校舎等の施設設備）が整備され、適切に維持、運営されていること。

9-1 の視点

- 9-1- 校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、附属施設等、教育研究活動の目的を達成するための施設設備が適切に整備され、かつ有効に活用されているか。
- 9-1- 教育研究活動の目的を達成するための施設設備が、適切に維持、運営されているか。

(1) 9-1 の事実の説明（現状）

本学の校地・校舎等の面積は以下のとおりである。

【校地・校舎】

表 9-1-1. 各キャンパスの校地・校舎と設置基準上の必要面積との比較

キャンパス名	校地	設置基準上の必要面積	校舎	設置基準上の必要面積
板橋キャンパス	54,341m ²	30,287m ²	48,278m ²	28,116m ²
相模湖キャンパス	184,946m ²	19,200m ²	24,410m ²	13,321m ²
八王子キャンパス	185,633m ²	148,360m ²	83,713m ²	70,691m ²
宇都宮キャンパス	285,666m ²	19,000m ²	32,550m ²	24,775m ²
福岡キャンパス	63,879m ²	4,800m ²	7,156m ²	6,413m ²

【運動場・体育施設】

運動場、体育館等の面積は、データ編表 9-5 のとおりであり、体育の授業をはじめ、クラブ活動、学園祭、オープンキャンパスなどに幅広く有効に活用されている。なお、板橋キャンパスでは、運動場、体育館は設置しておらず、体育の授業は八王子キャンパスで行なわれている。

（相模湖キャンパス）

相模湖キャンパスは、運動場（122,391 m²）、テニスコート（3 面）、アリーナ（475 m²）を持つ体育館があり、有効に利用されている。また、キャンパスに隣接して、本学野球部の合宿所（1,091 m²）や野球部の雨天練習場（600 m²）等がある。

（八王子キャンパス）

八王子キャンパスには、人工芝で多目的に利用している第一グラウンド（5,589 m²）、サッカー場や駅伝用トラックを併設した第二グラウンド（10,167 m²）また、アメリカンフットボール場をメインとする第三グラウンド（人工芝グラウンド 14,491 m²：隣接テニスコート 3 面（1,825 m²）を含む）がある。キャンパス内には、他にバスケットコート（1,575 m²）等もある。また、キャンパスから徒歩 15 分以内の場所には、弓道場、洋弓場やラグビーグラウンドがあり、クラブ活動や対外試合等に広く利用されている。また、近郊には女子柔道部の 3 階建合宿所（1,193 m²）、軟式テニスコート 2 面（2,121 m²）がある。体育施設としては、蔦友館の中に観客席を伴うメインアリーナ（2,024 m²）があり、バスケットボールやバレーボール等の授業やクラブ活動等に利用されている。さらに体育施設棟内

には、競泳用プール（25メートル×6コース）がある。平成 20(2008)年 4 月には最新の電子トレーニング機器等を備えた地上 2 階建のトレーニングセンターが完成した。

（宇都宮キャンパス）

宇都宮キャンパスには、多目的に利用している第一グラウンド（29,100 m²）野球場専用の第二グラウンド（16,320 m²）がある。第三グラウンド（23,490 m²）は、主にテニスコート等に使用されており、平成 18(2006)年度に、テニスコートを人工芝のコートに改修し、フットサルコートも新設した。平成 20(2008)年 4 月には、弓道場（387.2 m²射場、的場、矢道を含む）も完成した。他に体育館（2826.70 m²）がある。

（福岡キャンパス）

福岡キャンパスには、運動場（29,025 m²）と 3 面のテニスコート（1,739 m²）と体育施設としてアリーナ（570 m²）がある。

【図書館・情報サービス施設】

図書館、情報サービスなどの施設は、各キャンパスとも毎日多くの学生及び教員に利用されている。図書館については、キャンパスごとに独立した図書館を持ち、学部に合わせて運営となっている。また、インターネット環境も整備されている。例えば、医学図書館（板橋キャンパス）薬学図書館（相模湖キャンパス）では、医学図書分類、薬学図書分類に則った蔵書分類がなされており、八王子キャンパスでは、マルチメディア・インターネット環境が整えられている。また、板橋キャンパスの医学図書館は、平成 18(2006)年度の日本医学図書館協会加盟館統計の購入雑誌種数では、全国 147 館中 10 位にランクされている。電子ジャーナルも多数導入され、平成 20(2008)年にはリンクリゾルバ(インターネット情報源を結びつけるソフトウェア)を導入して文献検索から所蔵検索・電子ジャーナル全文閲覧までの流れを一元化し、さらに電子図書館機能を高めている。

各キャンパスの図書館は、独立運営であるが、平成 16(2004)年から帝京大学各キャンパス（福岡キャンパスを除く）の図書館の蔵書を横断的に検索できるシステムとして iLiswave(富士通)を一括採用している。

（板橋キャンパス）

板橋キャンパスの医学図書館は、本部棟 2 階に閲覧室と事務室、地下に積層の書庫を置き、閲覧フロアにグループ学習室 2 室、視聴覚ブース 2 席のほか、インターネット検索コーナーがあり、各種視聴覚機器やインターネット検索用パソコンも 2 台設置されている。平成 19(2007)年度の入館者数は、60,133 名、蔵書数は、20 万 1,260 冊となっている。また、情報処理サービス施設としては、基礎棟 6 階にネットワーク実習室、研究用コンピュータ室があり、学生及び教職員が情報収集やレポート作成に活用している。

（相模湖キャンパス）

相模湖キャンパスの図書館棟は、2 階、3 階が閲覧室、中 1 階、中 2 階が書庫となっている。閲覧室内にはグループ学習室 4 室、個室 8 室、VTR 室 5 室を設置しており、各種視聴覚機器やインターネット検索用パソコンも 3 台設置されている。平成 19(2007)年度の入館者数は、87,352 名、蔵書数は、12 万 2,636 冊となっている。情報サービス施設には、調剤業務、医薬品情報管理などの知識を習得し、医薬情報を検索できる「医薬情報教育ルーム」がある。

（八王子キャンパス）

八王子キャンパスは、平成 18(2006)年 9 月、地上 4 階、地下 1 階、建築面積 1,984.16 m²、総延べ床面積 8,231.07 m²、閲覧席数 1,805 席で約 72 万冊の図書を収蔵可能な新図書館（帝京大学メディアライブラリーセンター）が完成した（平成 19(2007)年時点で所蔵冊数は約 60 万冊）。地下 1 階はメディアラウンジ及び集密書庫、1 階はメインカウンター、ブラウジング及び事務室、2 階はマルチメディアフロアー、3 階と 4 階は書庫と閲覧席が隣接する学習スペースとなっている。平成 18(2006)年 9 月の開館後、平成 19(2007)年度入館者数は 48 万 7,005 名と旧館時（平成 17（2005）年度）の 1.8 倍に増加している。また、情報サービス施設として、デスクトップパソコン設置教室やノート PC 教室等があり、デスクトップパソコン設置教室が 5 室（PC 台数 275 台）、ノート PC 教室 8 室（情報コンセント 509 個）、情報コンセント自習室がある。この他、新図書館にも学生が自由に使用できる PC が 213 台設置されている。

なお、学内 LAN の整備も進めており、情報コンセント数は、合計 2,561（平成 20（2008）年 5 月 1 日現在）となっている。

（宇都宮キャンパス）

宇都宮キャンパスは、図書館棟の 1 階に事務室と閲覧室があり、2 階に AV 室及び閲覧室、3 階に閲覧室となっている。平成 18(2006)年度の入館者数は 64,365 名、蔵書数は 79,254 冊となっている。また、情報処理教育施設として CL 教室等がある。

平成 19(2007)年 4 月より、併設された学習支援室と図書館の利用を円滑にするために、夏季休業期間中に図書館棟 1 階の改修を行った。今までの高書架をやめ、低書架にして安全性と明るい室内環境を保つようにし、雑誌架の配置換えを行った。

（福岡キャンパス）

福岡キャンパスは、約 615 m²の図書館のスペースに閲覧スペースと書庫スペースがあり、年間の入館者数は 81,409 名、蔵書数は 47,910 冊となっている。平成 19(2007)年度末には検索システムの更新を実施し、新たに横断検索システム iLiswave(富士通)を導入した。平成 20（2008）年 3 月中旬に試験運用を開始し、平成 20（2008）年 4 月 1 日からは本格運用を開始した。

（附属施設）

本学には医学部の附属施設として 3 つの附属病院を擁している。帝京大学医学部附属病院（板橋キャンパス：1,154 床）、帝京大学医学部附属溝口病院（神奈川県川崎市：400 床）、帝京大学ちば総合医療センター（千葉県市原市：517 床）がそれぞれあり、我が国でもトップレベルの最新鋭設備やスタッフを有する大学病院群である。各附属病院は、地域の中核病院としての機能を果たしているが、特に板橋キャンパスの帝京大学医学部附属病院は、特定機能病院として高度の医療技術の開発と評価、高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することから、最新の医療施設や設備を整備している。さらに「救命救急センター」「総合周産期母子医療センター」などの救急医療施設も充実している。また、各附属病院は本学の医学部や看護学生をはじめとする卒前・卒後教育の臨床実習施設、研究施設としての大きな役割も果たしている。

【維持・運営】

各キャンパスにおける施設設備（電気設備、空調設備、給排水衛生設備、ガス設備、ボ

イラー設備、排煙設備、防災・消防設備、電話設備、LAN設備、昇降機設備等)の維持管理並びに外溝及び運動場の整備(キャンパス内の清掃、樹木の整枝、庭木の剪定、草刈や除草、警備業務等)は、各キャンパスの事務部門が担当し、専門業者へ委託している。また、図書館についても、それぞれのキャンパスに適した図書館システム(入退館管理や貸出管理システム)が採用され、適切な維持運営がなされている。

(板橋キャンパス)

板橋キャンパスでは、附属病院を抱えていることから、不測の事態に備え、「防災センター」や「設備センター」が24時間体制で、関連設備を監視し、維持管理に努めている。また、学内LAN及び情報サービス施設のネットワークの管理は、「情報センター」及び「学内LAN管理運営委員会」において、管理及び運営されており、担当職員で対応できない場合は、専門業者が対応している。また、研究用コンピュータ室では、週に3日間、相談員が常駐し、学生、教員の機器のトラブルなどに当たっている。

(相模湖キャンパス)

相模湖キャンパスでは、「薬学情報センター」において、学内LANをはじめHP管理、図書館棟ネットワーク管理、ネットワーク運用管理を行っている。また、近傍に神奈川県の水資源となっている相模湖や津久井湖があり、排出基準が厳しいため、実験排水処理、RI施設の維持管理は、基準に基づき適切に管理している。

(八王子キャンパス)

八王子キャンパスでは、学内LAN及び情報処理施設の運営管理は、「情報処理センター」が行っている。また、マルチメディア教室の維持管理については、事務部の担当職員が当たっている。新図書館については、学生の自学自習環境の改善、地域社会への利用促進を進めるため、開館時間の延長を行っており、平成19(2007)年5月より平日は21時30分、土曜日は17時までとし、利用相談窓口も18時まで延長している。

(宇都宮キャンパス)

宇都宮キャンパスでは、「施設設備ワーキンググループ」により、学生用教育用施設、実験設備の整備と運用上の問題点、必要とされる施設及び設備の整備と改善がなされている。また、情報処理施設の計画及び管理は、学内の教員を中心とした「情報教育施設・設備管理ワーキンググループ」によって行われており、学内LANの管理運営は、同ワーキンググループと会計チームが連携し、維持され、運営がなされている。

(福岡キャンパス)

福岡キャンパスでは、「ネットワーク研究室」が学内LAN等のネットワーク管理を行い、専門業者によるメンテナンスと並行して維持運営に努めている。

(2) 9-1の自己評価

各キャンパスとも校地・校舎は、設置基準を満たしており、運動場、体育施設、図書館などの施設は整備されている。各キャンパスにおける施設設備は、各キャンパスの担当事務部が専門業者へ委託し、委託業務に関し適宜確認を行い、常に管理されている。また、関係法令に基づき、その維持管理に努めている。

各キャンパスの図書館は、開館時間の延長を進めている。特に、八王子キャンパスでは、委託による有人開館延長、板橋キャンパスと相模湖キャンパスでは、無人入退館システム

による時間延長で、サービス向上に努めている。

(板橋キャンパス)

板橋キャンパスでは、基礎医学棟において、研究室の整備、2階から4階の実習室内の壁、床等改修工事、実験台の更新及びLAN環境の整備を行った。また、講義室の空調設備を整備し、教育環境の改善を行った。

(相模湖キャンパス)

相模湖キャンパスでは、薬学情報センターが、講義室の学生PC使用環境の整備、各種サーバの新規更新とセキュリティ機能の増強、LAN回線速度の増速、ウィルス対策の強化、スパムメール排除の強化などを行い、ネットワーク環境が大きく改善された。

(八王子キャンパス)

八王子キャンパスでは、学内LANを利用できる教室も充実しており、平成18(2006)年度完成の新図書館の開館により、教育・学習環境が飛躍的に向上してきている。旧館時と比較しても、入館者数は、1.8倍、貸出冊数は、10万1,257冊と約1.2倍となっている。

新図書館内に設置されているPC利用件数も従来に比べて4.2倍、12万7,211件となっている。利用者の活用度並びに満足度も高くなってきている。なお、外部の開放として、近隣9市(八王子市、日野市、多摩市等)に在住又は勤務の社会人や全国の本学卒業生にも貸出しを行っている。また、平成11(1999)年度から毎年度計画的に教室のマルチメディア化が進められており、現在、39教室のマルチメディア化が完了している。

(宇都宮キャンパス)

宇都宮キャンパスでは、近年事業計画予算等の法人予算及び文部科学省施設整備費補助金等を活用し年次計画で施設設備の大規模改修及び新設工事を実施しているため、施設設備に対する学生及び教職員の満足度が高まっている。図書館の1階の改修では、高書架から低書架に変更して、室内環境が今までの暗いイメージからの脱却ができた。また、前年度から行っている図書紹介コーナーが好評であり、利用者が興味をもって触れている様子から、少しずつではあるが利用しやすい環境として整ってきている。また、学習支援室も前年度より学生の出入りが多くなり、館内の図書の利用が活発になり、以前より目標であった図書館の利用促進に大いに役立っている。

(福岡キャンパス)

福岡キャンパスでは、平成18(2006)年4月「帝京大学福岡医療技術学部研究センター」が完成し、教育・研究施設の一層の充実を図った。また、学生数増加にあわせて駐車場及び駐輪場を増設し、環境整備に努めた。

(3) 9-1の改善・向上方策(将来計画)

各キャンパスでは、今後も年次的に施設設備の維持・保全にかかるプランを策定し、資金計画を立て、施設設備の長期維持向上に努めていく方針である。さらに、豊かなキャンパスライフを学生及び教職員が享受できるように、情報サービス施設の整備も進めており、特に視聴覚機器や教室のマルチメディア化、ネットワーク関係の整備は、今後もさらに進めていく。

(板橋キャンパス)

板橋キャンパスは、総合設計制度を利用した医学部附属病院、大学建物を含めた敷地全

体のリニューアル計画を平成18(2006)年度から実施中で、平成20(2008)年11月に新病院、その後平成24(2012)年4月に大学棟が完成する。

(相模湖キャンパス)

相模湖キャンパスは、情報処理技術及び情報処理教育の進展に合わせて、今後も「薬学情報センター」を中心としてネットワーク環境の整備を進めていきたい。

(八王子キャンパス)

八王子キャンパスは、今後も施設設備の整備を進めていく予定である。特に諸設備の計画的更新を行い、地球温暖化対策及びメンテナンスにかかるランニングコストの軽減を図ってきたい。さらに、教室のマルチメディア化を今後も計画的に推し進め、更なる学習環境の改善を図る予定である。

(宇都宮キャンパス)

宇都宮キャンパスは、近年の大規模な改修及び新設により快適になった施設設備を活用してもらうために学内掲示板及び電子掲示板等で積極的にPRしていきたい。また、今後より一層施設設備を充実させるために学友会等を通じて広範囲に学生等の意見収集を行い、施設設備改修等に反映させるなどして利用者の満足度を高めることに努める。図書館では活字に触れる機会をより増やすために読書アンケートや図書紹介等、図書館の利用促進につながる活動を続けたい。また、平成20(2008)年度より、医療技術学部柔道整復学科が開設されたことを契機に、医療・スポーツなど新分野の資料充実を図り、蔵書構成に幅を広げたい。

(福岡キャンパス)

福岡キャンパスでは、今後も施設設備の整備を進めていく予定であり、学生数の増加により、図書館の書庫、閲覧室及び学生自習室の確保、学生食堂、屋外休息スペース及び教室設備のリニューアルを実施する予定である。また、図書館の検索システムは他キャンパス図書館導入のシステムと同じiLiswave(富士通)に更新し、運用が安定した時点で接続し、利用者の利便性を高めていきたい。

9-2. 施設設備の安全性が確保され、かつ、快適なアメニティとしての教育研究環境が整備されていること。

9-2の視点

9-2- 施設設備の安全性が確保されているか。

9-2- 教育研究目的を達成するための、快適な教育研究環境が整備され、有効に活用されているか。

(1) 9-2の事実の説明(現状)

【施設設備の安全性】

建物の安全対策として、昭和56(1981)年6月以前に建築された八王子キャンパスの旧耐震基準の建物について、耐震診断を実施し必要な耐震補強工事をほぼ完了している。今後も残存する旧耐震基準の建物について、随時耐震補強工事または建替により安全を確保していく予定である。なお、平成18(2006)年9月に完成した新図書館(メディアライブラリーセンター)は、免震構造となっている。

宇都宮キャンパス及び福岡キャンパスには、現在、旧耐震基準の建物はなく、板橋

キャンパス及び相模湖キャンパスでは、その一部に旧耐震基準の建物があるものの、現状のままとしている。その理由として、板橋キャンパスでは、キャンパスリニューアル計画が進行中であり、相模湖キャンパスでは、将来的に板橋キャンパスへの全面移転を計画しているためである。しかしながら、その間の安全性を確保する必要がある。そのため、この両キャンパスの旧耐震基準の建物及び建築諸設備は、注意深く管理点検を行い、安全性の確保に努めているところである。

アスベスト(石綿)対策については、各キャンパスの建物の調査を平成 17(2005)年度中に終え、同対策が必要な部分については、平成 17(2005)～平成 18(2006)年度内に終了している。なお、文部科学省の通達(19 文科施第 419 号)を受け、石綿 6 種類の使用の有無の分析調査については検討中である。

各キャンパスでは、先述のとおり、日常の建物及び建築諸設備のメンテナンスは、民間の専門業者への委託で行っており、不具合が発見された場合は、迅速に事務部門と専門業者が連携し、必要な措置を講じている。また、各キャンパスの図書館では、BDS(ブックディテクションシステム：蔵書持ち出し防止装置)を導入するとともに、八王子キャンパスでは、防犯カメラシステムや IC カードによる最新の防犯システムを採用している。

学内 LAN 等のネットワーク環境は、各キャンパスとも年々授業や研究分野で情報収集等の利用が拡大していることから、セキュリティ対策としてファイアウォールの設置、ウイルス対策サーバ等を設置し、情報サービスの安全対策を図っている。

化学実験用の薬品や実験用の排水処理は、各キャンパスや附属病院とも細心の注意が払われ、学内に設置された専用施設で安全処理後、排水している。また、劇薬等の薬品の取り扱いについても、キャンパスごとに「管理規程」等を設けて、安全管理に努めている。

各キャンパスの図書館は、情報支援サービスとして、ガイダンス、オリエンテーション、講習会、カリキュラムの一部等で、学生に文献検索方法を指導しており、これにより図書館の有効利用が図られている。特に、八王子キャンパスでは、新入生必修科目「ライフデザイン演習」で図書館活用ガイダンスを実施している。

全キャンパスにおいて、AED を導入し、安全性を確保している。

(板橋キャンパス)

板橋キャンパスの防災対策については、附属病院を抱えていることもあり、防災センター、設備センター、警備室が 24 時間体制で関連設備や災害等の監視を行い、不測の事態に備えている。また、防災訓練も年 2 回以上実施され、その他に講習会等を開いて、教職員の防災に対する意識の高揚を図っている。なお、病院内には、防災・災害委員会、安全管理委員会等をはじめ、各種委員会があり、災害時の対応や施設設備の安全管理体制を確保するための様々な検討がされている。

(相模湖キャンパス)

相模湖キャンパスでは、教職員及び常駐業者に「緊急時対応マニュアル」「自衛消防編成表」を配布し、地震、火災時の安全確保の体制を整えており、放射線施設の管理運営は、予防規定に沿って放射線施設管理室と事務室が連携して行なっている。さらに、RI 運営委員会を年 2 回開催するなど安全管理の徹底を図っている。

（八王子キャンパス）

八王子キャンパスでは、日常の建物及び建築諸設備の管理を平成 13(2001)年より業者委託しており、委託業者と管財チームの「定例会議」を警備会社も含めて毎月実施し、施設設備や防災・防犯面での問題点を協議し、改善を図っている。また、警備会社が 24 時間体制で常駐し、火災・防犯等に対応している。建物により、機械警備を導入している。各実験室の薬品等の管理は、各研究室の責任者と管財チームが行い、管理規程を設けて、年 2 回の報告を義務付け、適正管理を徹底している。なお、平成 18(2006)年度に災害時に対応するために「災害用備蓄倉庫」を 3 号館 1 階に設置し、3,000 食分の非常食と飲料水を確保している。さらに、バリアフリー対策については、現在キャンパス内に車椅子用エレベーター 9 基、身障者用トイレ 15 ケ所、自動扉 16 ケ所を設置し、他に点字ブロックやスロープ敷設も行われ、車椅子も 2 台常備している。

（宇都宮キャンパス）

宇都宮キャンパスでは、学生、教職員の安全確保を最優先に考え、老朽化した施設設備について事業計画等の法人予算により順次更新、増設を実施している。また平成 17(2005)年度からは衛生委員会を通じて施設設備の安全面の改善を提言し、会計チームが早急かつ臨機に対応している。そして、会計チームで処理できないものについては、外部専門業者に修理、改修等を依頼し安全確保に努めている。

（福岡キャンパス）

福岡キャンパスでは、日常の施設管理は、警備業務及び学内清掃業務を含め、建物保守管理業務として専門業者と委託契約を行い、施設設備の安全性を確保している。

【教育研究環境の整備】

各キャンパスでは、以下のように学生及び教職員に対するキャンパスアメニティを意識しながら、さまざまな教育研究環境の整備及び有効利用に努めている。

（板橋キャンパス）

板橋キャンパスでは、基礎医学棟等のトイレ改修工事の他、教室の照明増設工事を行い、快適な教育環境の改善に努めている。また、コンピュータ実習室や研究用コンピュータ室は、医学部、医療技術学部、専門学校生、教職員に幅広く利用されている。

（八王子キャンパス）

八王子キャンパスでは、次のような教育環境整備を行なった。

平成 14(2002)年 4 月より、学生の通学手段改善のため、聖蹟桜ヶ丘駅、高幡不動駅、多摩センター駅からのバスのキャンパス構内乗り入れが開始され、利便性が向上するとともに、平成 12(2000)年 6 月にキャンパス内にコンビニエンスストアもオープンし、連日多くの学生が利用している。

平成 15(2003)年 10 月に体育施設棟を増築し、学生ラウンジ (2,025 m²) を設置、館内には約 1,000 席を確保するとともに、分煙化も実現した。また、平成 12(2000)年 6 月に 2 号館横の緑豊かな屋外の場所に「憩いの場」として、テーブル、ベンチを設置。平成 18(2006)年度にはそのスペースを拡張し、現在、「憩いの場」は、多くの学生のコミュニケーションの場として利用されている。

毎年計画的に建物ごとにトイレ改修を行っており、キャンパス内の全女子トイレに非

常押しボタンを設置し、トイレ内のトラブル対策も講じている。

(宇都宮キャンパス)

宇都宮キャンパスでは、平成 17(2005)年度に「キャンパスライフ支援センター」、平成 18(2006)年度に「学生活動センター」を設置し、学生の日常生活や課外活動のサポートしている。また、トイレの改修工事や学生食堂に隣接の屋外ラウンジを設置し、キャンパスアメニティの改善を図った。

(福岡キャンパス)

福岡キャンパスでは、平成 17(2005)年度に校舎の空調設備更新工事、平成 18(2006)年度には校舎内の既設トイレのリニューアル工事を行なった。また、平成 19(2007)年度には既設トイレのリニューアル工事が完了したほか、ロッカー室棟も完成し、分散していたロッカー室を 1ヶ所にまとめることで、学生の利便性が向上した。

(2) 9-2 の自己評価

毎年、キャンパスアメニティを目的とするトイレの改修、バリアフリー対策などが各キャンパスで整備されており、今後も進めていく必要がある。また、耐震補強など安全性を確保するための補強工事は、ほぼ完了した。なお、各キャンパスでは、各種安全対策に対する委員会や定例会議等を定期的に行き、施設設備の現状についての情報収集や必要な対策の策定など安全確保の体制を整えている。

また、各キャンパスにおいては、食堂が食事以外での学生間の交流の場として利用されている。そのため、八王子キャンパスでは、学生のコミュニケーションスペースとして学生が利用しやすいように平成 18(2006)年度に蔦友館の食堂スペースの照明改修工事とトイレ改修工事を実施し、整備を行なった。また、宇都宮キャンパスでは、平成 17(2005)年度にテーブル、椅子、カーテン等のリニューアルを行うとともに、福岡キャンパスにおいても、テーブルの配置の見直しにより、利便性の向上を図った。

セミナーハウスが箱根町強羅に平成 18(2006)年度に完成し、現在、帝京大学グループの多くの学生や教職員が、ゼミや研修等で利用しているが、同施設に対する評判も高い。

(3) 9-2 の改善・向上方策(将来計画)

各キャンパスでは、施設設備の整備の中でも、特に安全性の確保のために、耐震診断、耐震補強工事は最優先と位置付けており、旧耐震基準の建物を中心に八王子キャンパスや附属施設においてほぼ完了している。

各キャンパスにおいて、障害者の施設の利便性及び安全性の向上を図るため、平成 18(2006)年に施行されたバリアフリー新法によるバリアフリー対策を今後も実施していく予定であるが、今後は、バリアフリーを一步前進させたユニバーサルデザイン(利用者に優しい施設・設備)を目的としたキャンパスアメニティの充実を図っていきたい。

施設設備の充実と拡大に伴い、各キャンパスともその施設設備の維持管理は、地球温暖化対策(省エネ)と密接に関係し、重要なテーマとなっている。特に電気の使用量は契約電力を超過しないようにするため、不要な電気を消費しない、エアコンの設定温度を調整するなど省エネの普及に努めているが、より効果を高めるため、学生参加型(主導型)の省エネ活動を推し進めていきたい。

基準9全体として

〔基準9の自己評価〕

各キャンパスとも、教育研究目的を達成するための施設設備は、十分基準値を満たしており、快適で安全な教育環境を整えているとともに、建物の耐震対策についても整備が進んでいる。今後も施設設備については、各キャンパスにおいて、十分なチェックを行い、維持保全を図りたい。

各キャンパス内の図書館、体育施設、情報サービス施設、運動場等の施設設備の整備状況は、良好であり、現行での管理体制下での施設設備の維持管理も問題ない。今後更なる充実を図るため、アンケート等の利用により利用者のニーズを先行して把握することに努め、更なる整備を進めていきたい。

各キャンパスとも、情報処理の学習施設は順調に整備されてきている。今後、CALL教室などの語学学習施設の充実も図りたい。また図書館については、八王子キャンパスで実施している地域社会人への開放を他のキャンパスにおいても進めていくとともに、カリキュラムと連携しながら、情報リテラシーを高め、実践する場として充実させていきたい。

板橋キャンパスと八王子キャンパスでは、「東京都環境確保条例」に基づく「東京都地球温暖化計画書制度」により、地球温暖化対策を平成17(2005)計画で実施し、温室効果ガスの削減に寄与するとともに、ゴミのリサイクルにも努めている。

また、宇都宮キャンパスは、平成18(2006)年度に太陽光発電設備を設置するなど環境への配慮を進めており、今後も各キャンパスにおいて地球温暖化対策をサポートしていく方針である。

〔基準9の改善・向上方策（将来計画）〕

各キャンパスの既存の施設設備においては、今後も劣化診断、安全性診断、環境診断、省エネ診断、システム診断等を必要に応じて行い、安全管理、維持保全を図りながら、環境への配慮や学生数の増加に対するキャンパスアメニティの更なる充実に努めていく。

板橋キャンパスでは、先述のとおり、平成18(2006)年度より医学部附属病院、大学棟を含めたキャンパスリニューアル計画が進んでおり、免震・耐震構造のみならず、防火、省エネ、セキュリティ対策など学生、教職員及び患者様の安全や環境に配慮した建物の建設計画が進んでいる。